



交流協会 / 異文化理解講座

在北京ライターが語る

中国の今、日本の今



● 最近の中国の現状や暮らしについて、日本に一時帰国中の臼井裕之氏による講演



臼井裕之氏

現在、中国外文局（中華人民共和國國務院直屬の中国外文出版發行事業局）傘下にある中国報道雑誌社に勤務。エスペラント語によるウェブサイトの記事の校正や編集を担当。週末などはエスペラント語を教えている。

2016年2月10日（火）18：00～20：00、交流協会の多目的スペースに於いて、中国・北京の中国報道社のエスペラント部編集者（北京市在住）臼井裕之氏による「異文化理解講座」が開かれました。臼井氏は2012年迄21年間、杉並区役所に在職していたご縁もあり、今回で2回目の講演会になります。当日は様々な世代の約30名の受講者を前に北京の生活の様子やご自身が暮らすなかで深まった、中国に対する理解などについて紹介して、集まった方々は新鮮で素のままのお話をうかがうことができました。

2年前の講座の時は日本での中国の話題は「反日」と「大気汚染（PM2.5）」だったが、今回は「反日」が「爆買」に変わった、というお話から始まりました。日本へ旅行したいという人は多いが、「日本になんて行くな」という人も一定数いるとのこと。また、大気汚染は「天候は晴れだが屋外が暗い」日もあるという様子や、昨秋に一度「赤警報」が発せられて「休日」となったことなどのお話があり、事態の深刻さを感じられました。

また、ご自身の「エスペラント語」にまつわる事柄や、北京の和気あいあいの職場生活の様子などを明るく楽しげに話され、どの国にもあるような和やかさを感じました。しかし反面、中国国際放送は約60言語で対外宣伝に努めているなど、中国政府はとても広い視野と長いスパンで政策を実践しているといった現実的なお話から、改めて日本を検証してみたとき、それと対応する日本は？と不安がよぎった次第でした。

参加者のみなさんからは、「普段メディアで知るのは違った実体験、中国の組織で働く日本人の話を知ることができた」ということや「客観的でより興味がわいた」といった感想が寄せられました。今回、臼井氏の身近な話題にもかかわらず、とても大切でそして深さを感じた講座でした。（広報部 Y）



Event Information from SACE 交流イベント情報

◆ 交流協会からのお知らせ ◆

● なみすけフェア

新発売のなみすけグッズを取り揃えたフェア
◇日時：4月1日（金）～15日（金）
9：00～16：30

◇場所：区役所1階コミュニティショップ

● 田舎暮らし体験・小千谷ツアー

◇日時：5月27日（金）～29日（日）
◇内容：田植えやそば打ち、農家民宿への宿泊など体験型ツアー

◇参加費：29,000円（2泊3日7食付き）

● 外国人おもてなし語学ボランティア講座

◇日時：6月29日（水）13：00～16：30
◇会場：セシオン杉並

◇参加費：無料
※申込方法など詳細はお問合せください。

◆ 国内交流自治体からのお知らせ ◆

● 吾妻の朝市

群馬県東吾妻町の新鮮な農産物の販売
◇日時：4月28日（木）、5月26日（木）、
6月23日（木）10：00～13：00

◇場所：区役所中杉通り側入口前

● 小千谷ふるさと市場

新潟県小千谷市の新鮮野菜や魚沼産コシヒカリなどの販売

◇日時：5月16日（月）、7月11日（月）
10：00～14：00

◇場所：区役所中杉通り側入口前

● 青梅市観光展

青梅市の特産品販売
◇日時：5月23日（月）～24日（火）
10：00～15：00

◇場所：区役所中杉通り側入口前

● 忍野村観光展

山梨県忍野村から見える富士山「忍野富士」の写真展

◇日時：5月23日（月）～27日（金）
8：30～17：00

◇場所：区役所2階区民ギャラリー

● 北塩原村観光物産展

福島県北塩原村の高原野菜や山塩、花豆などの特産品販売

◇日時：6月2日（木）～3日（金）
10：00～15：00

◇場所：区役所中杉通り側入口前

● 名寄市アスパラまつり・写真展

北海道名寄産のグリーンアスパラの販売、風景写真の展示

◇日時：6月8日（水）～10日（金）
10：00～15：00

◇場所：区役所中杉通り側入口前・
区役所1階ロビー

※写真展2日目は8：30～17：00

● 南伊豆町観光物産展

静岡県南伊豆町の干物や海藻など特産品販売

◇日時：6月20日（月）10：00～14：30
◇場所：区役所中杉通り側入口前・
区役所1階コミュニティショップ前

● 南相馬市観光展

福島県南相馬市の特産品販売と相馬野馬追の写真展

◇日時：6月30日（木）10：00～14：00
◇場所：区役所中杉通り側入口前・
区役所1階ロビー

※物産展はいつでも雨天実施・売り切れ次第終了となります。

マイバッグ（買い物袋）をご持参ください。

問合せ：区役所文化・交流課交流推進担当
☎03-3312-2111（代表）

交流協会の会員になりませんか？ 杉並区交流協会では、国内・国際交流の推進をはかるために、様々なイベントを企画しています。あなたも会員になって、楽しく交流しませんか？

年度会費

・個人会員 1,000円/年
（9月以降入会の場合は初年度に限り500円）
・法人会員 20,000円/年

会員期間

入会の月から3月31日まで（当年度末）

会員特典

- ① イベントの情報や交流に関する情報紙 [交流ニュース（年4回発行）・NEWS LETTER（年8回発行）など] をお届けします。
- ② 協会が実施するイベントに優先的に参加できる会員枠があります。
- ③ イベント参加費に会員割引があります。

申込方法

入会希望の方は杉並区交流協会まで電話・ハガキ・Fax・E-mailにより申込書類をご請求ください。



HP・Facebook 随時更新!!

杉並区交流協会

検索

すぎなみ交流ニュース

第40号

2016年4月

Suginami Cultural Exchange News

수기나미 교류 소식

杉並的交流消息

◆ 発行：杉並区交流協会 [Suginami Association for Cultural Exchange (SACE)]
〒166-0004 東京都杉並区阿佐谷南1-14-2 みなみ阿佐ヶ谷ビル5階

[Minami-Asagaya Bldg. 5F 1-14-2 Asagaya-Minami, Suginami-ku, Tokyo 166-0004 Japan]
TEL.03-5378-8833 FAX.03-5378-8844 E-mail:info@suginami-kouryu.org

<http://www.suginami-kouryu.org/>



目次

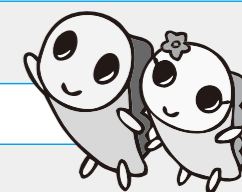
- 日本語スピーチ大会を開催しました 2～3
- データから読み解く杉並区に暮らす外国人 3
- 異文化理解講座のレポートほか 4

2016年度 杉並区交流協会の活動方針と事業予定

杉並区交流協会は、多文化共生社会において、人と人との“つながり”、地域と地域の“交流”を育むことを通じて、安心して活力ある杉並区の創造を目指します。この理念のもと、3つの柱 <①在住外国人の支援 ②区内外の自治体交流の推進 ③多文化共生社会の相互理解の向上> に沿って下記の事業を展開します。

2016年度の主な事業予定

5月	ウェルカムパーティー（外国人と日本人が共に生活していくために必要なことを学び交流するイベント） 田舎暮らし体験・小千谷ツアー（交流自治体体験ツアー）
6月	「外国人おもてなし語学ボランティア」育成講座
9月	第4回まるごと台湾フェア（中学生の野球大会などで交流している台湾の文化を紹介するイベント）
11月	すぎなみフェスタ参加（ステージや出店を中心とした杉並区のおまつり） 台湾親善訪問ツアー
2月	外国人のための無料専門家相談会
3月	日本語スピーチ大会



<その他> 海外文化セミナー、語学講座、語学ボランティアの研修、やさしい日本語講座など【時期未定】

また、在住外国人への支援活動として、年間通して「外国人サポートデスク」や「日本語教室」を実施しています。

外国人サポートデスク開設日・対応言語

毎週（月）・（金）9：00～12：00、13：00～16：00（祝日、年末年始を除く）

英語 …（月）午後、（金）午前 中国語 …（月）午前、第1・3・5（金）午後
韓国語 … 第2・4（金）午後

区役所1階 区政相談課窓口にて

Welcome Party 参加者募集!

杉並区でより良く暮らしていくための知識と体験、人と人とのつながりを生み出す毎年恒例のイベントです。

- 【日時】 5月21日（土）10：30～15：00（雨天実施）
- 【会場】 区立杉並第一小学校（阿佐谷北1-5-27）
- 【内容】 防災訓練（消火訓練など）、交通安全指導、分別ゴミの出し方、アルファ米でのおにぎり作り、交流ゲームなど
- 【定員】 外国人50名、日本人50名
- 【参加費】 100円（保険料）
- 【申込方法】 電話、ハガキ、FaxまたはEメールで行事名・住所・氏名（ふりがな）・年齢・電話番号・国籍を書いて、杉並区交流協会へ
- 【共催】 杉並区
- 【協力】 杉並警察署・杉並消防署・杉並清掃事務所・杉並区防災課





第13回 日本語スピーチ大会

2016年3月5日(土)【於】座・高円寺 主催 杉並区交流協会 共催 杉並区・東京杉並ロータリークラブ

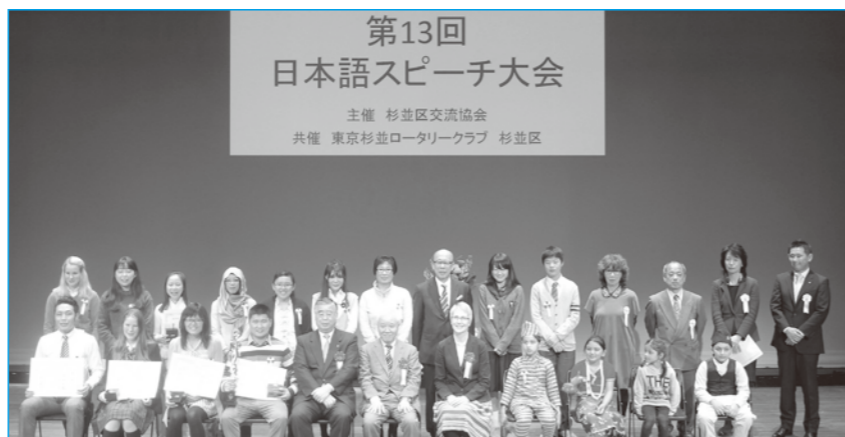
Japanese Speech Contest

「かれらを通して、日本を知る」をキャッチフレーズに第13回日本語スピーチ大会が、今年も座・高円寺で開催されました。

当日は約100名の聴衆を前に、8カ国11名の方が日本に来て感じたこと、母国との違いなどを約5分でスピーチ。その後、杉並区の姉妹都市オーストラリア・ウィロビー市に短期留学した杉並の中学生2名が英語でスピーチ、130名に生徒数が増えたエベレスト・インターナショナル・スクールから小学生2名がスピーチを行いました。5名の審査委員の審査の間に、坂根シルックさんから今日のスピーチへのコメント、尺八奏者・田嶋謙一さんの演奏と漫談が行われ、その後表彰式に入りました。4名の受賞者の発表、表彰状授与、審査委員から一人一人への暖かいコメントがあり大会は終わりました。

今回のスピーチ大会は、日本の街にはゴミ箱がないのにゴミが少ないというゴミに関する題材のスピーチが多く、また滞日期間が短いにもかかわらず、きれいな日本語を話す方が多かったのが印象的でした。

また坂根シルックさんから「流暢な言葉も大切ですが、何を伝えたいかという思いと相手を知り理解することがコミュニケーションには大切」というお話がありましたが、11名一人一人の細かな観察眼と、伝えたいという思いが聴く人の心に響き、「かれらを通して、日本を知る」一日になりました。(広報部K)



フィンランド出身の坂根シルックさん



エベレスト・インターナショナル・スクールで学ぶネパール出身の小学4年生2名



ウィロビー市での体験を発表した区内の中学2年生2名



尺八奏者・田嶋謙一さん



アウネテ ラセンさん(デンマーク)



「日本に来て一番驚いたことはなんですか」

「名前は何ですか。どこの国から来ましたか。お寿司は好きですか。日本に来て一番驚いたことは何ですか。」最初の3つの質問は答えやすいです。でも4つ目の質問にはいい答えがなかなか見つかりませんでした。そんな中での一番の驚きは街にゴミ箱のないことです。デンマークでは日本の自動販売機と同じくらいゴミ箱があります。それでも日本はデンマークよりきれいです。日本ではゴミはもって帰るよううらやましく思います。最後にみなさんに4つの質問をします。「名前は何ですか。日本のどこに住んでいますか。わさびと納豆がないお寿司食べませんか。スピーチを聞いて一番驚いたことは何ですか。」

ボーテリー 宝徳利さん(中国)



「日本人の優しさについて」

私は昨年10月に中国内モンゴルから来て、驚いたことは日本人の優しさです。街でゴミを捨てようと思いましたが、ゴミ捨て場がなく警官に聞きました。すると私の手からゴミを取って「捨ててあげます」と行ってしまいました。道や電車の中で混んでいたら通る時、譲る時、誰でも小さい声で「すみません」というのはとても普通です。また初めてのバイトで気分が悪くなった時、一緒に働いている人がそばに来て「頑張ってるね」と言いました。その一言は本当に力になりました。外国からたくさんの方が日本に来て、興味をもっています。これは日本人の優しさと関係あると思います。また日本以外の方が、日本人のこの面を学べば、必ずよくなると思います。これは日本で初めていい勉強になったことです。

データから読み解く 杉並区に暮らす外国人

日本の在留外国人は約212万人(人口比1.7%)。杉並区には12,798人(人口比2.1%)の外国人が暮らしています。

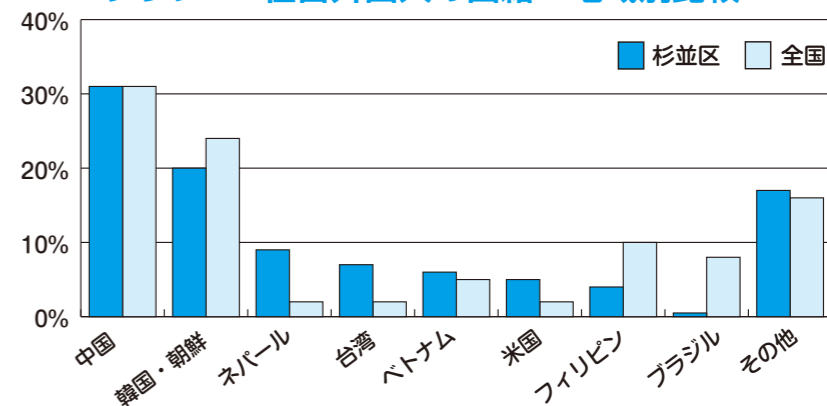
グラフ1をみると、杉並区に暮らす外国人は、ネパール、台湾、ベトナム、米国の割合が全国を上回る一方、全国的には3位のフィリピンと4位のブラジルが際立って少ないことが特徴として浮かび上がってきます。また全国9位のネパールが杉並区では3位です。2013年に開設された日本初のネパール人学校の生徒数は30名から130名を超えました。ネパール人コミュニティの存在も杉並区の特徴といえそうです。

グラフ2で注目されるのは杉並区の留学生の割合の高さです。日本学生支援機構によると外国人留学生数は184,155人(2014年5月1日現在)。目立つのはベトナム人(26,439人)とネパール人(10,448人)の急増です。杉並区に留学生が集まるのは、隣接する新宿区に多くの日本語学校が立地しているからでしょう。

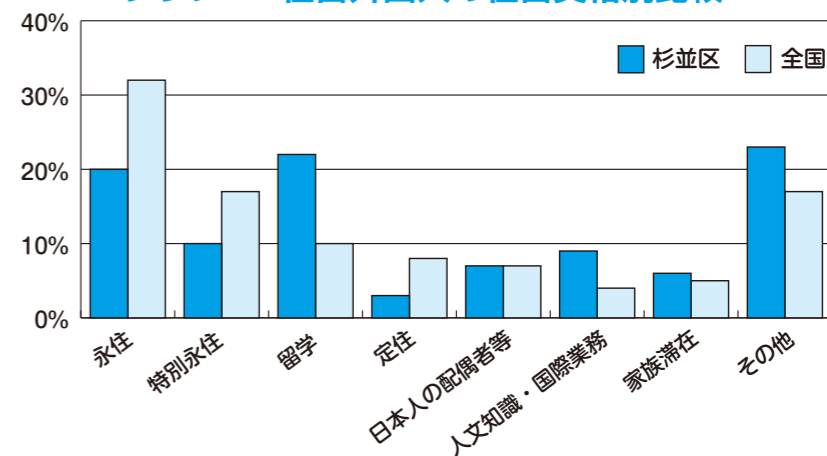
では全国に比べて、杉並区の「永住」「特別永住」「定住」の割合が低いことから何を読み取ることができるでしょう。ここからは、杉並区の外国人には居住期間が比較的短く、流動性の高い人が多い傾向があると分かります。杉並区の外国人住民との共生の取り組みは、まだ日が浅いという見方もできます。

交流協会では、在住外国人向けに防災訓練を盛り込んだウェルカムパーティー(5月)、外国人サポートデスク(外国人相談窓口)、日本語教室などを開催しています。まずはこうした情報を、必要とする外国人に、いかに的確に届けていくかが、引き続き大切な課題だといえそうです。(広報部T)

グラフ1：在留外国人の国籍・地域別比較



グラフ2：在留外国人の在留資格別比較



注：在留外国人数は2014年末、杉並区のデータは2015年末現在です。



バトゥナサン ガンバドゥラハさん(モンゴル)「スマホは人々をかえている」

初めて来日したのは2005年の10日間の旅行でした。私は日本人の2つの素晴らしい習慣に気付きました。第一は日本人の読書の習慣です。日本人は家でも電車やバスの中で熱心に本を読んでいます。第二に気付いたのは家族のコミュニケーションです。群馬県の優しい家に泊めて頂きましたが家族が集まってご飯を食べながらいろいろなことを話し合ったのは一番印象に残ります。2014年になり留学生として日本に来て一番面白いことはどう変化したかを見ることでした。そして電車に乗ってすぐ日本が変わったことがわかりました。本を読んでいたのは20人のうち2人しかいなかったからです。残りの18人はスマホを持って大部分はゲームをしていました。群馬県の家族を訪問しましたが、誰もがスマホやタブレットを持って、暖かい会話ではなく画面を見つけていました。スマホをどの程度使うかは個人が決めるので、スマホの魅力にはまらず、日本人の貴重な習慣を回復させるべきだと考えます。



謝 秀旻さん(台湾)「日本に住んで私が見た日本」

日本語を勉強するために東京に来て、台湾と違うことがあるのに気付きます。例えば銀行のATM。時間外に利用すると手数料が高くなる、「チリも積もれば山となる」です。また旅行に出かけた時、駅にベンチがなく、足が棒になりました。次に街の中にゴミ箱が少ないと思いました。ところが隅田川の花火大会に行きましたが、終わった後みんなが自分のゴミを持って帰りました。「ゴミはゴミ箱へ」ではなく「ゴミは持ち帰る」本当に驚きました。また日本のゴミ分別は複雑で難しいですが、環境に優しいことに気付きました。日本人のマナーと習慣に感心しました。台湾に帰ってからみんなに伝えたいです。